

心得にも可相成、内々御通置候旨御座候、右相濟、勝手次第引取可申筈に付、直様退散少仙同道此  
正藏とかりに杉本多紀兩御氏へ、首尾能相濟、難有仕合と申趣意を以て、御禮廻り、御著書一部づ  
改名爲致候

つ、相二より差上度旨を以て差出置申候、當日御詰合の醫中、大勢被致一覽、皆々感心、先年星野良  
悦獻備の品とは大に勝り候様、口々評判致され、誠に御本望御同慶の御事に御座候、略中

一一昨十一日、左の寫の通封狀到來、略中

御達申義有之候に付、明十二日五ッ時過、醫學館へ御出席可被成候、以上、

三月十一日

多紀安長

杉本忠温

大槻玄澤様

依之昨朝内々正藏召連、御同處へ罷出候處、杉本多紀兩御氏御列座被申渡候者、

其許門人各務相二製作の木骨、醫學館へ獻納仕候につき、爲御手當、此金二十兩被下置候、此段

可相達旨被申候、略中

〔令義解職一員〕典藥寮

醫師十人、掌療諸疾病及診候、

〔令義解職一員〕内藥司

侍醫四人、掌供奉診候、謂診驗也、候望也、言診驗血脈候、望顔色也、此診驗者、與醫疾令所謂診候、其意少異也、

〔奇魂ワカソウワ〕診候法

凡病狀を察んには、脈を候ふを主とすれば、誰も最精くせではならぬわざなるを、漢にて難經脈  
經等に虚説を記たるを初として、名だ、る人々多けれど、各少の異こそあれ、大方は同義にて、寸  
關、尺、三部、九候など云名を立て、天地人、五臟、六腑、陰陽、五行、杯配當て、理深げには云めれど、誰もえ

診候